

作成日：2009年3月9日

## 化学物質等安全データシート

### 1. 製品名

製品名 : 紫外線硬化型透明接着剤

### 2. 物質の特定

単一製品・混合物の区別 : 混合物

化学名 : アクリル系接着剤

成分および含有量 : ①アクリル変性オリゴマー 45～55%  
②アクリルモノマー類 45～55%  
③光開始剤 2%未満

化学式 : 企業秘

官報公示整理番号（化審法・安衛法） : 企業秘

CAS番号 : 企業秘

国連分類及び国連番号 : 該当せず

### 3. 危険有害性の要約

分類の名称 : 分類基準に該当しない。

最重要危険有害性 : かゆみ、かぶれ、発疹等の皮膚障害を起こす恐れがある。

有害性 : かゆみ、かぶれ、発疹等の皮膚障害を起こす恐れがある。  
飲み込んだり、吸入すると有害である。

物理的及び化学的危険性 : 高温で引火による火災の危険性がある。強酸、強アルカリ、酸化剤（過酸化物）、アミンなどと混合した場合激しく反応する。

### 4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、保温して安静に保つ。速やかに医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合 : 直ちに付着物を拭き取った後、水と石けんでよく洗う。衣類や靴に製品が付着した場合は速やかに脱ぎ捨てる。かゆみや炎症等の症状がある場合は速やかに医師の診断を受ける。

眼に入った場合 : 清浄な水で最低15分間洗眼した後、医師の手当てを受ける。洗眼の際、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄する。

飲み込んだ場合 : 水で口の中をよく洗い、直ちに医師の手当てを受ける。

最も重要な徴候及び症状に対する簡潔な情報 : かゆみ、かぶれ、発疹

### 5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末、二酸化炭素、泡

特定の消火方法 : 付近の着火源を絶ち、保護具を着用して消火する。流出がある場合には土砂、土のう等で流出を止めるように努め、容器を安全な場所に移動させる。

消火を行う者の保護 : 有害なガスを吸い込まないように呼吸用保護具を着用し、風上から消火作業を行う。

### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 暴露防止のため、作業は風上から行い、保護具を着用して蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。風下の人を避難させ、漏出した場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。

- 環境に対する注意事項 : 本製品を含む廃水の公共用水域への排出又は地下浸透を防止するため、本製品がこぼれた床面などを水で洗い流してはならない。
- 除去方法 : 少量の場合は、ウェス、土砂などに吸収させて蓋付きの空容器に回収する。火花を発生しない安全なシャベルなどを使用する。多量の場合は、土砂などで流れを止め、安全な場所に導いて回収する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 火気厳禁。電気機材は防爆構造にするほか静電気、スパークなどによる着火源を生じないようにする。吸入・接触のおそれがあるときは適切な保護具を使用する。取扱い後は、手洗い、うがい及び洗顔を充分に行う。

- 注意事項 : 局所排気装置の設置、設備の密閉化又は全体換気を適正に行うことが望ましい。

- 安全取扱い注意事項 : 暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。蒸気の吸入、皮膚への接触を避ける。強酸、強アルカリ、酸化剤（過酸化物等）、アミン等との接触を避ける。

### 保管

- 適切な保管条件 : 適切な換気のある乾燥した冷暗所または冷蔵庫に密栓して保管する。その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

## 8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 蒸気を吸入しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化又は全体換気を適正に行うことが望ましい。取扱作業場所の近くに手洗い、洗眼および身体洗浄のための設備を設け、その位置を明示する。

管理濃度		未設定
許容濃度	日本産業衛生学会 (2000年)	未設定
	ACGIH (2000年)	未設定

### 保護具

- 呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク
- 手の保護具 : ポリエチレン手袋、ゴム手袋
- 眼の保護具 : 側板付き普通眼鏡型又はゴーグル型保護眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 : 作業衣又はエプロン型簡易保護服、安全靴（耐油性があり液が浸透しにくい構造のもの）
- 適切な衛生対策 : 作業中は飲食、喫煙をしない。

## 9. 物理的及び化学的性質

- 形状 : 中粘度液体
- 色 : 淡黄色透明
- 臭気 : 弱い刺激臭
- 粘度 : 約1000mPa・s (25℃)
- 比重 : 1.0 (25℃)
- 引火点 : 103℃
- 溶媒に対する溶解性 : 一部成分が水に溶解、有機溶媒（トルエン、アセトン等）に易溶。

## 10. 安定性及び反応性

- 安定性 : 通常の条件下では安定。高温、光照射により発熱を伴い重合する。
- 反応性 : 強酸、強アルカリ、過酸化物、アミン等との混合で急激な反応を引き起こす可能性がある。
- 危険有害な分解生成物 : データ無し

**11. 有害性情報**

- 急性毒性 : LD50 (ラット、経口) 590mg/kg (計算値、50%は毒性が未知の成分)  
 局所効果 : 液体、蒸気は眼または喉などの粘膜に対し、刺激性がある。皮膚との接触によりかゆみ、かぶれ、発疹などの皮膚障害を起こすことがある。  
 変異原性 : データ無し

**12. 環境影響情報**

現在のところ知見なし。

**13. 廃棄上の注意**

- ①産業廃棄物として許可を受けた専門業者に処分を委託する。
- ②硬化して固形状になったものは、廃プラスチック類として処理する。
- ③使用済みの容器、ウェス等も同様に処理する。
- ④少量の場合、他の可燃性溶剤に溶解して処理することもできる。

**14. 輸送上の注意**

- 注意事項 : 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に  
 行うこと。火気厳禁。
- 国内規制 : 陸上輸送 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。  
 海上輸送 船舶安全法に定められている運送方法に従う。  
 航空輸送 航空法に定められている運送方法に従う。

**15. 適用法令**

- 消防法 : 危険物第四類第3石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性液体)  
 化審法 : 指定化学物質を含まず。  
 労働安全衛生法 : 通知対象物を含まず。  
 化学物質管理促進法 (P R T R法) : 指定物質を含まず。  
 毒劇法 : 該当せず  
 船舶安全法 : 該当せず  
 航空法 : 該当せず  
 港則法 : 該当せず

**16. その他情報**

- ①危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱いには充分注意してください。
- ②この化学物質等安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならぬ事項を簡潔にまとめたもので、通常の手配を対象としたものです。
- ③本製品は、この化学物質等安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱って下さい。
- ④ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

以上